

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 2月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500273		
法人名	社会福祉法人 呉ハレルヤ会		
事業所名	グループホーム ベたにあ		
所在地	広島県呉市中通四丁目9番17号 (電話) (0823)32-5985		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500273-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年2月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、「尊厳ある介護」を行い、入居者の認知症の進行を緩やかにし、人生の夕暮れ時に「出会えてよかった」と思っていただけできるよう、下記のサービスにこだわっています。

- ・「です・ます調」の丁寧語を使用すること、また「不適切な言葉遣いマニュアル」を作成し、否定形や命令的な言葉等を使用することがないように意識し、日々のケアに取り組んでいます。
- ・職員に対し認知症研修を定期的開催し、受容や共感、傾聴等のコミュニケーション技術や知識を学び、認知症高齢者のケアへ活かしています。
- ・長引くコロナ禍において、国や県等の通知の把握や共有を図った上で、家族との面会やレクリエーション等の催しの実現に向け検討し、実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「尊厳ある介護」を根底に、職員全員が共有習得して、事ある毎に原点に立ち返り、日々の介護業務に活かされている。人生の先輩として尊び敬い尊敬の念を抱き、身だしなみや言葉遣いを重視し、マニュアルを作成し、自己点検表で確認する等、意識の向上に努めている。協力医療機関の医師による訪問診療や看護師による健康管理、又、緊急時の24時間連携体制が整えられ入居者・家族が安心となるよう努めている。面会時間等の制限がある中で毎月、担当者によるお便りや写真が添えられ状況報告を行い安心に繋がっている。コロナ禍で地域住民やボランティア等外部の方との交流が難しいが、今後も継続実現できるよう検討尽力し、職員が一丸となり、地域に根付いた事業所を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」という法人理念を実行する為、定期的なミーティングや法人全体の内部研修会等を、コロナ禍において、今年度はオンラインで開催し、共有している。 又、ケアに悩む時は、理念に立ち返り、チームで話し合っている。 職員は、裏面に法人理念を記載した名札を身につけている。オンラインで行う夕礼では、皆で唱えている。	理念を朝夕礼で唱和し、職員の名札の裏に記載する等意識周知を図っている。事業所目標として半期ごとに目標を掲げ、ミーティングを通じて、取り組みの過程を重視し、日頃の業務を振り返り、「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」を常に共有し、理念に沿った介護支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染拡大防止として、面会の制限やボランティアの受け入れを停止したり、前年度まで積極的に行っていた外出を控えた。又、恒例となっていた幼稚園児との交流は、幼稚園側と当事業所の双方延期(結果として、今年度は中止)の意向があったり、地域の祭りやイベントが中止となったりしたこともあり、地域との日常的な交流は行えなかった。 認知症アドバイザー資格を持つ職員が講師となる、市が実施する地域住民向けの認知症理解講座の出席者より、家族や近所の方の入所についての問い合わせや相談、見学においては、積極的に受け入れた。	本来は、地域行事(秋祭り・港祭り・土曜夜市等)やボランティアの受け入れ、幼稚園児の来訪等、世代を超えた交流が行われていた。コロナ禍終息後は日常的に交流継続が出来るよう努める考えである。認知症アドバイザーによる認知症予防教室を開催する等、地域住民に理解を深めて頂く取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「もの忘れ相談窓口」の旗を事業所入り口に掲げたり、1階の受付にパンフレットを置き、問い合わせ対応出来る様心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止として、2ヶ月に1回開催していた運営推進会議は、令和2年3月より、入居者のサービス状況や事業所の取組み等を、文書と写真で運営推進委員に報告することで開催とみなし、現在も継続中である。	全家族に事前に参加の案内状を送付し、地域包括支援センター・地域代表・障害者施設指導員等参加が得られ、意見情報交換の場となる。コロナ禍で開催は控えるが事業報告は書面にて送付し写真やケアプラン検討の内容を添付し、介護計画の過程に理解が得られ、日頃の様子や活動も分かりやすく伝えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ禍においても、感染防止策を講じ、認知症アドバイザー資格を持つ職員が、市が実施する地域住民向けの認知症理解講座を開催し、講師として協力している。 運営に関することや新型コロナウイルス感染拡大防止のための対処に関して疑問等があれば質問をしたり、相談や報告をしたり、機会があれば市町担当者に連絡している。	日頃から運営推進会議に参加が得られ情報共有が図られている。コロナ禍で開催が中止の為、議事録を送付し書面で報告する等、関係性の継続に努めている。介護制度上の不明瞭な点や疑問点を相談、助言を頂き理解を深め、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的な身体拘束廃止委員会の開催や内部研修やマニュアルの確認を実施し、職員同士の声掛けを行うようにしている。</p> <p>戸締りの為、夜間のみ、施錠している(日中は行っていない)。</p> <p>居室センサーを使用する場合は、入居者のADLのアセスメントし計画を立て、必要な時間帯等を職員間で検討し、実行している。又、定期的に評価し、改善に取り組んでいる(PDCAサイクルの活用)。</p> <p>認知症研修を開催し、認知症ケアの専門知識を持つ職員を中心に、落ち着き穏やかに過ごせるよう、入居者の精神面でのケアに努めている。</p>	<p>定期的に身体拘束廃止委員会の開催や不適切なケアがないか事例をあげて内部研修を重ね周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、言葉による抑制をする事がないよう入居者の立場にたち、職員間で話し合い、寄り添う支援を実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内外部研修や配信(オンライン)研修を受講し、虐待に関する定義や行為等を学習する機会を設け、職員同士の声掛けを行うようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内外部研修や配信(オンライン)研修を受講し、権利擁護に関する制度等を学習する機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、解約又は改定等の際は、書面や口頭等で十分な説明を行い、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>前年度は家族懇談会にて、意見交換会を開くことができたが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、中止とした。その為、毎月の入居者の様子を写真と手紙で報告し、定期的に家族に書面にて要望や意見を聞く機会を設け、それらを職員間で共有している。苦情受付窓口の設置は、契約時に説明し、玄関前にも閲覧出来るようにしている。</p> <p>法人が運営する地域相談センターでは、地域住民や家族等が相談しやすい環境を整えるよう努めている。</p>	<p>面会時間等の制限がある中、毎月担当職員が写真や利用者の様子を伝えるお手紙やアンケート用紙を同封し、意見・要望を聞く機会を設けている。お誕生日行事や利用者の好みや希望を聞いてのおやつレクなど反映に活かされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	「提案票」をもって職員より提案する機会を設けている。定期的にミーティングを開催し、職員の意見を聞き、課題が見つかった際は、法人全体のケアの質の向上に活かしているよう努めている。年に2回行う「目標管理シート」にて、「法人・施設等に対する要望」を自由記述できる欄を設けたり、代表者又は管理者との個人面談を年に計4回以上行い、各職員の意見を聞いている。	目標管理シートを記入、半期ごとに個別面談で達成度を確認している。個々に内外研修を通じて、介護技術の向上に活かされている。「提案表」を活用し、日頃の業務の中での不便さや改善案など気軽に意見要望が記入でき、改善に繋がった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者との個人面談は年2回以上行われ、管理者や各職員が抱えている悩みや意見を聞く機会を設けている。又、目標管理シートを使用する事で、各職員がモチベーションを向上できるよう、自身が目標を設定して、それを上司がサポートしながらキャリアアップ出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部では、キャリア別に段階を踏んで研修を行い、外部への研修には感染予防に最大限配慮し、参加している。又、コロナ禍においては、配信(オンライン)を活用して開催される研修に、積極的に参加している。目標管理シートにおいて、自身が設定した目標の達成度や過程を、職員と一緒に確認し、共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修会や密にならないようオンラインも活用した法人全体での内部研修における事業所による研究発表等に出席することで学び、サービスの質を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	「です・ます調」の丁寧語でコミュニケーションを図り、新規入居者の情報を職員間で確認している。利用契約に至るまでの期間に、管理者や計画作成担当者だけでなく、介護職員も自宅や病院等の他施設に伺い、話の場を確保したり、利用者が安心でき、話しやすい環境となるよう心掛けている。又、現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止として、職員、入居者共にマスクの着用で、顔は目しか確認できないことや対面での会話を最小限に努めており、限られた対話の際には目を合わせ、ジェスチャー等の非言語コミュニケーションを用い、話に耳を傾けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前は家族等からも情報収集を行い、入居後の生活に反映出来るよう努めている。又、気になる点等は、入居開始前でも受け、早期解決を目指している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>同法人の居宅介護支援事業所や小規模多機能ホームのケアマネジャーと共に相談したり、協力医や主治医の意見も確認する等、本当に必要なサービスを提供出来るよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「できる・できない」、「好き・嫌い」、「得意・不得意」、「やってみようこと」等をアセスメントし、入居者一人ひとりに無理のない範囲で出来ることを職員と一緒にやり、それらを、定期的に評価している。その際、現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止として、職員、入居者共にマスクの着用で、顔は目しか確認できないことや対面での会話を最小限に努めており、限られた対話の際には目を合わせ、ジェスチャー等の非言語コミュニケーションを用い、入居者は職員と対話をし、互いにその時間を大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者の当施設での近況を細かく家族等に伝えるよう努めている。 新型コロナウイルス感染拡大防止として、面会の中断をしていた期間は、家族等に定期的な連絡の希望の有無や時間帯等を確認して連絡し、入居者と話をする機会を設けていた。 又、家族等に月に1度、日頃の当施設での様子を写真に撮り、送付したり、家族等に来所していただく等、話し合う機会を設けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止として、以前より行っていた地域の祭りやイベント等も中止となり、近隣の商店街等への外出を控えたり、併設の個別対応デイサービスの利用者との交流を休止した。 長期化するコロナ禍において、職員間で検討し、敬老会には商店街にある入居者にもなじみの和菓子屋の生菓子を、和菓子屋に事業所用のメニュー表の作成の依頼をし、協力いただき、入居者は事前にメニュー表より選び、敬老会当日、召し上げられた。</p>	<p>コロナ禍の為外出を自粛しているが、以前は商店街の土曜夜市に出掛け馴染みの人との出会い、馴染みの洋服店や美容院に出かけていた。外出できない中でも馴染みの和菓子屋との交流を通じて、敬老会には生菓子のメニュー表で利用者を選んでもらい、好みの生菓子と抹茶が振舞われて、楽しみが喜びに繋がる支援がなされた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操やレクリエーション、イベント等で、交流する機会を設けている。又、入居者同士の関係がスムーズに構築されるよう、ミーティング等で職員の意見を収集し、検討したり、立ち止って話をするきっかけになるよう、イベントや日頃の様子の写真等を掲示したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した後も、当法人内の居宅介護支援事業所や地域相談センター、小規模多機能ホーム等において、家族等の相談を受け付ける等、経過をフォローしている。又、現状報告の連絡をくれる家族もいる。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の言葉に耳を傾け、行動や表情からも思いを汲み取れるよう努めている。困難が生じた場合は、理念、運営方針、倫理要綱に立ち返り、入居者を主体とし、チームで検討し、取り組んでいる。家族等が来所された時は、日常の生活の写真や動画を見てもらい、伝えている。家族等からも継続して聞き取りを行い、思いの把握に努めている。	入居時、本人・家族から聞き取り把握に努めている。経過と共に変化する思いや要望を日頃の業務の中からさりげない会話や仕草から受け止め職員間で共有し、常に理念に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に細かいアセスメントを実施するだけでなく、日常の会話からもこれまでの生活について把握し、家族等からも聞き取りを行い把握したことを、支援経過等にまとめたり、会議で話し合ったりして、それらを職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護日誌やケースファイルの日々の記録で共有している。主にケアプラン会議、事故予防ミーティング等において、現状の把握やチームで入居者へのケアに活かせるよう、共有に努めている。朝礼や夕礼、その他口頭での申し送りも、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン会議で、入居者の希望や課題について検討し、家族等の来所時や電話連絡の際にその内容について話し合い、助言いただいている。会議前には、掲示スペースに職員の意見が書ける仕組みをとり、参加できない職員の意見も汲み取っている。課題に対する経過を記録し、モニタリングを行うことで、ケアプランに反映している。</p>	<p>本人・家族の意見、要望を把握し、職員・関係者の意見や課題を集約し、ニーズに沿ったケアプランを計画作成担当者が作成している。半年ごとに経過記録や状態変化などに伴う課題の見直しのモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護日誌やケースファイル、疑問・質問記入表等に細かく記入したり、入居が開始し、まだ慣れずなかなか落ち着かれない入居者の言動や時間帯や夜間の不眠が続いた入居者の言動等についてのモニタリングを行ったりして、入居者理解を深め、情報共有を図り、介護計画、ケアに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の為、個別対応デイサービスの利用者との交流を休止しているが、事業所内のみの生活、行動範囲とならないように、個別対応デイサービスの休業日にはデイサービスフロアを活用し、ティータイムやレクリエーションを行い、気分転換を図っている。又、法人内の他事業所と共同しながら、幅広く柔軟に支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍において、地域の幼稚園児との交流やクリスマスの児童養護施設によるキャラリングの訪問が中止され、ボランティアの受け入れを停止している。入居者の家族以外の面会は、控えていただいている。長期化している為、職員間で検討し、敬老会には商店街にある入居者にもなじみの和菓子屋の生菓子を、和菓子屋に事業所用のメニュー表の作成の依頼をし、協力いただき、入居者は事前にメニュー表より選び、敬老会当日、召し上がられた。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医院の定期往診を月2回行ったり、協力歯科医院の訪問診療を必要時行っている。専門医の受診は、家族等の協力を得ているが、緊急時は当施設で対応している。協力医の24時間対応により、緊急時や夜間の体制を整えられており、細やかな連絡が行えている。主治医は、本人の希望に応じている。</p>	<p>かかりつけ医の希望を本人・家族に説明している。協力医の月2回の往診や介護師による健康状態を把握し、必要時は訪問歯科の往診もある。専門医の受診は家族の協力を得ている。家族受診が困難な時は訪問介護を利用し受診をしている。緊急時の24時間連携体制も整い、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>非常勤で看護師を配置し、医療との連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に必要な情報に関し、入居者や家族等の了承のもと、病院側に提供している。又、退院後の受け入れ体制を整え、病院側との退院前カンファレンス等を行い、コーディネートしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居前に、「重度化した場合における対応に係る指針」や「急変時や終末期のあり方についての意思確認書」を、入居者や家族等に説明し、同意を得ており、定期的に意思確認を行っている。又、それらを職員間や協力医療機関と連携し、共有している。重度化した場合や終末期ケアを踏まえた研修の出席やミーティング等で職員と話し合い、考え方を深めている。</p>	<p>入居時、重度化や終末期について説明し同意を得ている。重度化した場合、家族・医師・職員と話し合い方向性を見極め支援に取り組んでいる。職員も研修や看取りについてのマニュアルにより、知識を深め寄り添う支援をしている。看取り後も振り返り会議を開き、次に繋がる支援に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成し、定期的に研修等を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署と連絡を取り、指導・助言のもと防災訓練を定期的実施している。又、警備会社と災害時のことに関し入居者や職員と、避難先について確認を行っている。災害マニュアルは、定期的に見直している。</p>	<p>消防署の指導、アドバイスの下、年2回防災訓練を実施している。災害防災委員会を通じて、避難ルートや防災機器点検等、非常災害マニュアルの見直しを行い意識を高めている。災害対策として救護グッズ・備蓄（水・非常食品等）広島「さっそくネット」の拠点として地域ぐるみで取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱いは、慎重に行っている。 入居者にとっての現実を評価することなく受け止め、自尊心の回復につなげられるよう、否定形や命令的な言葉は避けた声掛けに努めている。 一人ひとりの習慣や生活環境等を把握し、声掛けの配慮、入浴や排泄時の羞恥心に対する配慮も心掛けている。	「不適切な言葉づかいマニュアル」を基に身だしなみや言葉遣いについて自己確認を行い、入居者一人ひとりの性格や人格を損なう事がないようプライバシーに配慮し、職員間で共有し、意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	新型コロナウイルス感染症拡大防止として、外出や外食レクリエーションを中止したり、正面や長時間のコミュニケーションを控える中で、マンツーマンで話をしたり、食べたいおやつ等の希望を聞いたりして、一人ひとりに合わせた対応を心掛け、満足のいく日常生活を送れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームとしての決まりごとはあるが、一人ひとりの生活リズムを考慮し、入居者のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者は、訪問美容を利用している。季節に合った入居者の好みの服を職員と一緒に選び、着用出来るよう支援している。化粧水や乳液で、居室の鏡台や洗面台の鏡を見ながら肌を整える入居者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き等の簡単な食事の準備や片付けは、職員と一緒に行ったり、おやつレクリエーションでは、職員と一緒におやつ作りをされたり等、楽しんでいただいている。 又、利用者の体型や状態に合わせた椅子に座っていただき、食事が食べやすいよう工夫している。	栄養バランスを考慮したメニューの配食サービスを利用している。主食、味噌汁は事業所で調理され味付けご飯は好評である。行事食（ちらし寿司）やおやつレクでホットケーキなどを作り、時にはチェーン店のハンバーガー等、食を楽しめるよう工夫も行っている。座位姿勢に配慮し個人に合う椅子を選択している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士による栄養管理や、職員により食事量や水分摂取がチェック出来る体制を整えている。 食事や水分摂取量の減少時等には、協力医に報告している。 夜間のトイレの後等の飲水は、職員が声掛けをして、お茶をすすめている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行ったり、出来る限り入居者自身で行えるよう支援している。義歯のある入居者は、外して口腔ケアを行っていただき、夜間は各々義歯洗浄剤に浸けて保管している。 又、病気等により口を開けにくくなった入居者の口腔ケアの方法は、協力歯科医に確認している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>当施設には3ヶ所にトイレがあり、車椅子でも対応できるスペースを確保している。 入居者の状況に応じた声掛けも含めた配慮に努め、日中や夜間の排泄状況を確認しながら、リハビリパンツとパッドを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用する等、一人ひとりの習慣や状況に合わせた柔軟な対応を心がけている。</p>	<p>モニタリング表を基に個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあった間隔や誘導の声掛けをする等トイレでの排泄に繋げている。デイの休みにはフロアーを利用し、気分転換や午前午後のテレビ体操で活動量を増やすなど自然排泄に向けた支援をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分を摂取してもらう為に、細やかな声掛けや見守りを心がけている。 体操は、午前と午後毎日行っているが、以前はほぼ毎日、併設の個別対応デイサービスへ移動し、交流の時間において、体操やレクリエーションを行い、身体を動かす機会を設けていた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、交流を休止した為、それらの機会は減少した。休止期間が長期化しており、令和2年度後期は、「入居者の筋力低下を防ぐ為、体操やレクリエーション等を行い、状態の維持・向上」をチームの目標に掲げ、個別対応デイサービスの休業日にはフロアを活用し、移動を含めた運動機会を確保し、取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個別に見守り、介助をしながら支援している。 入居者の希望や入浴することを受入れやすいタイミングや環境を検討し、支援している。</p>	<p>週2回、入居者の健康状態等考慮した上で柔軟に対応している。シャワーチェアや手すり等、環境整備され、声掛けの段階から個別に言葉かけする等、心地よく入浴を楽しむ支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人ひとりのペースや好みの把 握に努め、入居者の状態に合わ せ、休息をすすめる等行ってい る。又、室温や湿度にも気を配 っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>看護師が中心となり、医師や薬 剤師と情報を交換し、職員間で 共有している。又、誤薬や飲み 忘れがないように、職員2名で 服薬のチェックを行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>色塗りを好まれる入居者は、完 成した作品をフロアに掲示したり 、それらを鑑賞されたりする入 居者もいる。掃除・洗濯等は、 出来る限り入居者自身で行うよ う、声かけや見守りをしている。 又、食事の片付けやティータイム のメニュー聞き取り等、一人ひと りが役割を持てるよう努めてい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>今年度は、新型コロナウイルス感 染拡大防止として、通院や手続 き等の必要時以外の外出は、入 居者や家族等にも理解していただ けるよう説明に努め、了承の もと、行っていない。現在は、 テレビの旅行や料理を見ながら 、今後実現できるように、行き たいところや食べたいもの等の 希望を聞いている。</p>	<p>外食や公園、買物等外出支援を 行ってきたが、必要時以外の外 出は困難となり、事業所内で テレビの旅行番組や料理番組を 見てもらい、話題が少しでも 気分転換になり楽しんで頂ける よう、今後の支援に繋がる取り 組みに努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>一人ひとりの能力に応じた対応 をしている。お金を所持してい る入居者は、紛失した場合の 家族の了承も得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持参している入居者を含め、希望があれば、自由に電話出来るようにしている。手紙や葉書のやり取りを楽しみにしている入居者もいる。 新型コロナウイルス感染拡大防止として、面会の中止をしていた期間は、家族等に定期的な連絡の希望の有無や時間帯等を確認して連絡し、入居者と話をする機会を設けていた。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	イベントやレクリエーションの予定や誕生日会のお知らせ、イベントや日頃の様子をの写真を、生活を感じられるよう掲示している。 入居者が作成した壁画や手芸作品を掲示し、季節に応じた空間作りをしている。又、トイレ等のお知らせは、入居者が混乱しないような表現やイラストを用いている。	手作り作品が飾られ、イベントやおやつレクのお知らせが掲示されている。部屋番号は3色に色分け、カーテンも2段に色分けする等、入居者にも分かりやすく配慮がされている。ソファも赤色にし困惑しない色合いやコロナ禍の中で密を避けるため、机の間隔を開ける等、居心地よく過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはソファを置き、入居者同士が会話をしたり、くつろげるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室によって大きさや形が違い、また、本人が使い慣れた箆笥やベッド等の家具やテレビ、布団等を持ち込み、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。 入居者自身が自身の部屋と認識する為の番号はやわらかい色使いとし、カーテンは各部屋で違えている。 又、自身で取り組んだ作品等を飾っている。衣類や物の整理を、安心されるよう声を掛けながら、職員と一緒にしている。	使い慣れた調度品や大切な品物が持ち込まれ、個性を活かした居室づくりがなされている。自身で制作した作品や塗り絵、写真等大切な物に囲まれ、落ち着いて穏やかに過ごせるよう工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	「できていたこと」、「難しくなっていること」、「この方法ならできること」等、評価し、入居者にあった支援をしている。 食事の準備や片付け、洗濯たみ等、自身で出来ていることは行っていただけのように、個別の対応を心がけている。 又、歩行器やポータブルトイレを使用しただくことで、出来る限り自立した生活が送れるよう努めている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームべたにあ

作成日 令和3年3月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全家族に運営推進会議の案内を送付している。新型コロナウイルス感染拡大防止として、令和2年3月より、入居者のサービス状況や事業所の取組み等を、運営推進委員に文書と写真で報告している。	入居者の日頃の様子や事業所の活動を、運営推進委員に報告するだけでなく、より詳しくわかりやすく家族にも伝えることで、心配な点を少なくし、安心していただく。	ケアプランや事故予防、その他の会議の議事録・報告書や入居者の日頃の様子や事業所の取組み等の写真を、出席された家族や運営推進委員だけではなく、全家族に送付する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。